

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要												
建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	サーパス新潟駅サウスガーデン新築工事 新潟市中央区南笹口1丁目630番1他 第一種住居地域、無指定 集合住宅, 2019年6月 予定 2,826.96 m ² 541.48 m ² 6,210.54 m ² 地上15F RC造 実施設計段階評価 2017年9月20日											
2. CASBEE新潟の評価結果												
 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52.9}{29.2} = 1.8$										
3. 新潟市の重点項目の評価												
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.5		<table border="1"> <tr><td>バリアフリー計画</td><td>Q2.1.1.3</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>維持管理</td><td>Q2.1.3</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>設備の更新性</td><td>Q2.3.3</td><td>3.0</td></tr> </table>	バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0	維持管理	Q2.1.3	4.5	設備の更新性	Q2.3.3	3.0
バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0										
維持管理	Q2.1.3	4.5										
設備の更新性	Q2.3.3	3.0										
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.9		<table border="1"> <tr><td>耐震・免震・制震・制振</td><td>Q2.2.1</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>信頼性</td><td>Q2.2.4</td><td>2.8</td></tr> </table>	耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0	信頼性	Q2.2.4	2.8			
耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0										
信頼性	Q2.2.4	2.8										
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		<table border="1"> <tr><td>雨水排水負荷低減</td><td>LR3.2.3.1</td><td>3.0</td></tr> </table>	雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0						
雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0										
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		<table border="1"> <tr><td>建物外皮の熱負荷抑制</td><td>LR1.1</td><td>5.0</td></tr> <tr><td>自然エネルギー利用</td><td>LR1.2</td><td>3.0</td></tr> </table>	建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0	自然エネルギー利用	LR1.2	3.0			
建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0										
自然エネルギー利用	LR1.2	3.0										
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.3		<table border="1"> <tr><td>節水</td><td>LR2.1.1</td><td>4.0</td></tr> <tr><td>躯体材料以外でのリサイクル材の使用</td><td>LR2.2.4</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>部材の再利用可能性向上への取組み</td><td>LR2.2.6</td><td>5.0</td></tr> </table>	節水	LR2.1.1	4.0	躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0	部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
節水	LR2.1.1	4.0										
躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0										
部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0										
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		<table border="1"> <tr><td>生物環境の保全と創出</td><td>Q3.1</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>敷地内温熱環境の向上</td><td>Q3.3.2</td><td>3.0</td></tr> </table>	生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0	敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0			
生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0										
敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0										
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 3.0		<table border="1"> <tr><td>まちなみ・景観への配慮</td><td>Q3.2</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>地域性への配慮、快適性の向上</td><td>Q3.3.1</td><td>3.0</td></tr> </table>	まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0	地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0			
まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0										
地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0										
4. 新潟市の重点項目の配慮事項												
<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に配慮し、更新期間の長い管材を採用しています。 ・住戸部の外皮性能は、住宅性能評価基準5-1等級4を満たしています。 ・節水仕様の水栓器具を採用しています。 												

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サーパス新潟駅サウスガーデン新築工事	階数	地上15F
建設地	新潟市中央区南笹口1丁目630番1他	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、無指定	平均居住人員	231人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2017年9月20日
敷地面積	2,827 m ²	作成者	櫻井 祥夫
建築面積	541 m ²	確認日	2017年9月20日
延床面積	6,211 m ²	確認者	菱崎 嘉昭



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	57%
③上記+②以外の	57%
④上記+	57%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

音環境	2.5
温熱環境	4.6
光・視環境	3.8
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	2.6
耐用性	3.1
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

地球温暖化	4.7
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>建築地は新潟駅からほど近いが、幹線道路からは離れているため、落ち着いたある良好な居住環境が得られるように計画した。また、地球温暖化や水資源確保など、地球環境にも配慮した。</p>	<p>その他</p> <p>建設工事において発生する廃棄物は徹底して分別し、資源のリサイクル化に努めることとした。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>外皮性能は住宅性能評価基準5-1の等級4を取得できるように、断熱材および開口部の仕様に配慮した。また、建物に使用する建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>住宅部分の天井高や階高を適切な寸法とすることで、良好な住宅環境の確保と将来にわたる改修のしやすさを考慮した。また、節水型器具の使用等によりランニングコストを抑えた計画となるように配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>各設備機器毎に取扱説明書を手渡し、使用機器の理解度の向上を図ることとした。住戸の窓は複層ガラスとし、熱負荷低減に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ODP=0の冷媒や断熱材の使用により、地球温暖化対策に配慮した。また、節水型水栓の使用により、地域の水資源の確保に努めることとした。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内は適切に緑化を施すことで、地表面温度の上昇を極力抑える計画とした。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物の断熱性能の向上や、省エネルギー性能の高い設備機器を採用することで、CO₂排出量の削減に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される